

Marcela Present's 徳島聖テモテ教会から愛をこめて

# も テモテ通信

Vol.7 2021 サマー号

暑中お見舞い申し上げます。

この「もテモテ通信」も7号になりました。教会がクローズしてしまった際に、皆さんに教会の様子をお知らせしたいと思って、宮田美樹が勝手に始めました。ですので、テモテ教会の公式な教会報ではありません。教会も再開していますし、必要ないのかもしれませんが。それでも、礼拝後にお茶を飲む感じで、たわいのない話を読み流していただければと思います。



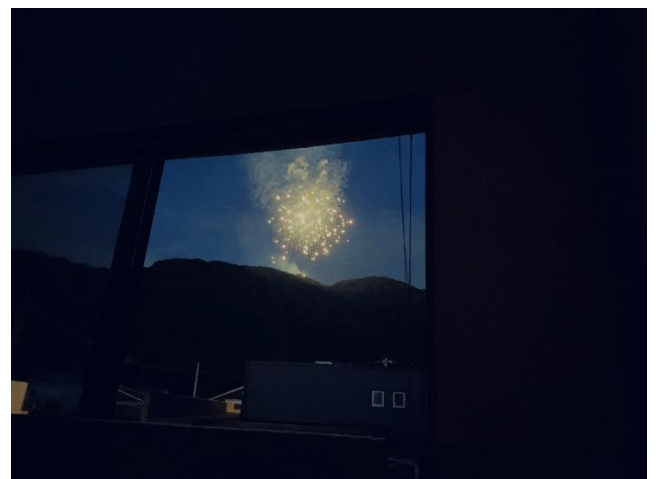
7月19日、四国も梅雨明けしました。今年はずっと長かったですね。5月15日頃から梅雨入りしましたから2ヶ月も！

環境破壊による気候変動の仕業でしょうか。

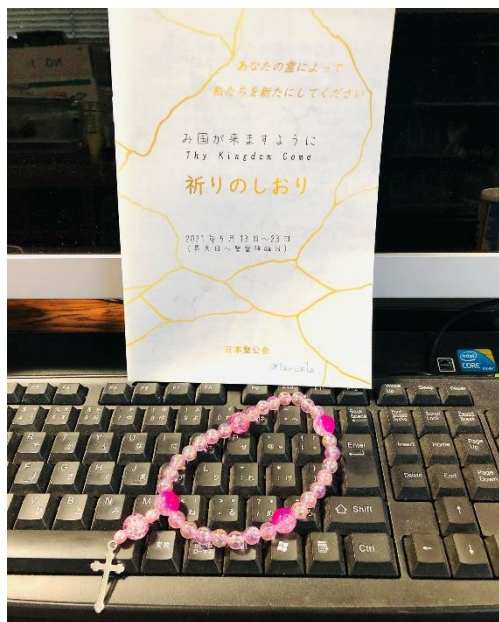
梅雨明けを待っていたとばかりに、セミが大合唱を始めました！これからはしばらく、朝の目覚ましはセミの鳴き声です。

7月17日、眉山で花火があがりました。10分弱の短い時間でしたが、礼拝堂から正面に綺麗に見えて、会衆席窓際は特等席になりました。

夏ですね～。



## 「み国が来ますように Thy Kingdom Come」 5月13日～5月23日



このキャンペーン、参加されましたか？

わたしと夫は、東京教区がお昼にzoomで行っていたお祈りに、毎日参加しました。

教会に来て欲しい人として、わたしは、3人の名前というか便宜上のコードネームを挙げました。ミカエラ、ガブリエラ、ラファエラ、大天使の女性名です。

3月半ばの木曜日、宮田せんせえが半田の礼拝に出かけた少しあと、3人の女の子が訪ねてきました。午前中に卒業式を終えたばかりの小学生でした。礼拝堂を案内して、少し話をすると、「ロザリオの十字架ってどこで手に入りますか？」と質問されました。残念ながら、手元にロザリオを持っておらず、「次に来る時まで用意しておくね」と約束して別れました。

それ以来、彼女たちが来ることはなく、オットは、「幻を見たんじゃない？」と言い出し、わたしたちの中で彼女たちは天使だったということになってしまいました。

彼女たちがまた来てくれると良いなと願っています。

聖公会のロザリオ(アングリカン ロザリー)も作りました。たくさん作っていますので、お声がけいただければ、おわけすることができます。コロナ禍が終わったら、「アングリカンロザリーの祈りの会」とか、「アングリカンロザリーを作ってみよう」とかの集いが出来たら良いなと考えています。

## 聖霊降臨日 5月23日



お花は三木亜佐子さんがご用意くださいました。

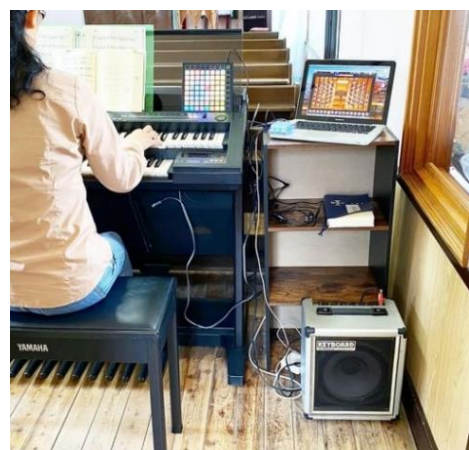
赤を中心に、ピンク、白、黄色・・・色とりどりで、まさに聖霊降臨日にふさわしい感じでした。

祭卓上のろうソクは、ベリーの香りのするろうソクでしたので、美しい花と良い香りで、とても気持ち良かったです。

## オルガン

写真は富岡キリスト教会ですが、テモテ教会でも、キーボードにコンピュータをつなぎ、パイプオルガンの音をだしています。音色はオルガンですが、前奏、後奏はその日に合ったものを選ぶため、沖縄慰霊の日(6/23)は「さとうきび畑」を前奏に、「島人ぬ宝」を後奏にしたり、友人が結婚すると聞いた日(5/30)は「Butterfly」を前奏にしたり、宗教曲ではないものを使うことがあります。Youtubeで聞けます。

Youtubeで「Luke Togoshi」で検索！



## 「マイラさん支援室」と「カパティラン」



関空にて。マイラさんのお母さんと。

どちらも、わたしが現在／過去に関わっている／いた、フィリピン人を支援するグループです。

昨年10月香川県で交通事故に遭い、昏睡状態になってしまったフィリピン人看護実習生のマイラ・エステバンさんを支援する「マイラさん支援室」、夫はそのメンバーの1人です。先日マイラさんのお母さんが来日し、3日間の強制隔離が明けた7月12日、関空に迎えに行き、先に日本に来ていたマイラさんの妹のレアさんが滞在中の高松に送り届けました。徳島港から和歌山にフェリーで渡り、関空まで5時間。お母さんと合流し、和歌山港から徳島に渡り、レアさんの住む家まで5時間。高松から家まで1時間。まるまる半日がかりのミッションでした。

お母さんのメロディさんは、家からマニラまで4時間。そしてマニラで2ヶ月ロックダウンのために待たされ、4時間かけて日本に着いて、3日間の強制隔離。5時間かけてようやくレアさんに会えました。でも、あと11日のstay homeを経ないとマイラさんには会えません。交通事故に遭って昏睡状態の娘に会う、という小さな、でも切実かつ大事なことに、気の遠くなるほど長い時間がかかっていることを思えば、半日なんて、一瞬でしかありません。

日本でのマイラさんの待遇はあまりに酷く、昨年12月には日本を引き揚げ、お兄さんの住まわれるオーストラリアに移住しようとしていた矢先の事故だったとレアさんから伺いました。

30年前、大学生だったわたしは、立ち上がったばかりの「カパティラン」でボランティアをしていました。日本に「エンターティナー」として来ながら「水商売」をさせられ、搾取されていたいわゆる「ジャパゆきさん」と呼ばれた女性たちの支援をするグループでした。わたしのいた三光教会では月に1度、日曜日の午後4時から英語ミサをし、その後軽い食事を提供する活動をしていました。彼女たちは狭い部屋に何人も一緒に住まわされ、部屋とお店の行き来も、送り迎えという監視がついていました。教会の礼拝に来るのにもお店の許可をもらい、やはり送り迎え付きでした。その後、日本はバブルが崩壊し、フィリピンでは法が整備され、「ジャパゆきさん」は減り、「カパティラン」が支援する対象も日本人と結婚した女性たちに変っていきました。

30年前の「ジャパゆきさん」と同じように、今、「技能実習生」として来日している外国人労働者を搾取している構造があります。30年も経っているのに何も変わっていないことに悲しくなり、絶望感に襲われます。

ルカによる福音書16章1節から13節に、「不正な管理人のたとえ」の話があります。要約すると、『無駄遣いをしていた管理人が、主人にバレて、仕事を取り上げられそうになった。すると、管理人は、仕事を取り上げられても、自分を迎え入れてくれる人を作ろうと、主人に借りのある人の借りを軽くしてあげた。すると、主人はこの不正な管理人の抜け目ないやり方を褒めた。』というもの。(詳しくは聖書を読んでみてください。)

中学校から聖公会系の女子校に通い、はじめて聖書に触れたわたしは、この箇所が不思議でした。不正を働いて、しかも、損をさせているのに、褒められるのはなぜだろうと思っていました。ところが、「カパティラン」に関わる女性からこんな話をうかがいました。「この聖書の箇所ね、フィリピン人女性たちにとっては、『こんないい話ないじゃない？だって、負債を軽くしてもらえるのよ』ってことになるのよ」と。ショックでした。自分の傲慢さに、ひっくり返るくらいビックリしまし

た。わたしは、「主人」の立場で見えていたのです。主人とはすなわち、神様。神様の立場で、今まで聖書を読んでいたのかと、愕然としました。「聖書」「福音書」って、やはり、虐げられている人、弱い人たちのためにあるのかもしれない。わたしがクリスチャンである意味って何だろう。と思い詰めました。でもそれも聖書には書かれていました。わたしがなるべきは、「不正な管理人」なのです。社会の中で、「負債を負っている人」「弱くされている人」の負債を少しでも軽くするために働き、連帯すること、それがわたしに課されている、と考えるようになりました。

わたし一人が連帯しようとしたとしても、あまりにちっぽけで、何も変わりません。それでも、いつか「神の国」が実現することを信じていたいと思います。

## みやた せんせえ より

感覚過敏は克服できない。

色々と苦手なことはたくさんあるのですが、一般的には「克服」しようと努力していくことが求められていると思います。ところが感覚過敏の場合は基本的には克服できないことが多いかもしれません。玉ねぎのシャラッとした歯ざわり、歯型を取るガム、ボールペンのザラッとした書き心地、履き慣れない靴下、アイスクリームの木のスプーン、ベタッとする整髪料、明朝体の文字などなど。数え上げたらきりがありません。また、回し飲みや箸・スプーンの共用、スリッパなど他の人の触れたものを使うこともとても苦手です。一時話題になっていた「他人が握ったおにぎりが食べられない」もそのとおりです。それもラップを使って握ったおにぎりすら食べるのはとても難しいです。

ありとあらゆるものが自分専用になっていないと、過度のストレスのためにちゃんと出来ない状況がよくあります。どこかで折り合いをつけて妥協しているわけですが、その妥協点は、他人はもちろんのこと自分でもわかりません。なので「これはOKで、こっちがNGなのはどうして？」と聞かれてもわからないのです。一つ一つの事柄に対して「こうだからNG」と表現することは出来るのですが「だったらこれはOKだよな？」と問われると「いや、それはNGです」ということがよくあります。自分でも謎なのですが、だから克服できるような事柄じゃないのだと思います。

感覚過敏は身体的感覚だけでなく、心理的感覚にも似たようなことが起こっています。人と出会ったときの初見で相性を感じることがあります。もちろんその後の関わりで変化は起こっているのですが、比較的初見の感覚は間違っていないことが多いように思います。

これらの過敏な感覚は、興味深いことに色や形に置き換えられて認知している事が多いです。「白いご飯」は「紫色」に感じます。ほかにも色々と置き換えられているのですが、それをスラスラと思い出すことは困難です。あまりにも無意識に置き換えられているからなのでしょう。

これが私にとって普通なので、普通の感覚はよくわかりません。普通ってなんだろうといつも思っています。



毎日暑いですね。そんな中、直前までゴタゴタしながらもオリンピックが始まり、コロナ感染者が増え、ワクチン接種が始まったものの、デルタ株には効かないとか、ワクチンが足りないとか、いろいろ混乱しますが、「命を守ること」を大事に、過ごして行きましょう。どうぞご自愛ください。